

2019年4月1日

星薬科大学同窓会
神奈川県支部の皆様へ

星薬科大学同窓会神奈川県支部
支部長 西村 友男

2019年度定期総会及び卒後研修会の開催について

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

日頃から当支部の活動にご理解、ご協力をいただき感謝しております。

さて、2019年度定期総会と卒後研修会を次により開催いたしますので、お誘いあわせの上ご出席くださいますようお願い申し上げます。

- 1 日 時：2019年6月9日（日） 午後2時
- 2 場 所：ウィリング横浜（別図参照） 12階121研修室
横浜市港南区上大岡西1-6-1 ゆめおおおかオフィスタワー内
TEL 045-847-6666
- 3 会 費：6,000円（内訳 支部年会費 2,000円、懇談会費 4,000円※）
※平成17年3月以降卒業の支部会員は懇談会費は無料といたします。
- 4 内 容：
 - (1) 2019年度定期総会（午後2時～2時40分）
 - ・2018（平成30）年度事業報告及び決算報告について
 - ・2019年度事業計画（案）及び予算（案）について
 - ・その他
 - (2) 卒後研修会（午後2時45分～4時15分）
 - 講 演 がんにおける免疫監視機構とその応用
～免疫チェックポイント阻害薬の開発の歴史～
 - 講 師 国立がん研究センター 先端医療開発センター
ユニット長 大植 祥弘
 - ※星薬科大学認定薬剤師認定単位1単位を取得できます。
（認定共催：星薬科大学）
 - (3) 懇 談 会（午後4時20分～6時）

裏面につづく

第 25 回星薬科大学同窓会神奈川県支部研修会
2019 年 6 月 9 日 (日)

がんにおける免疫監視機構とその応用
～免疫チェックポイント阻害薬の開発の歴史～

国立がん研究センター 先端医療開発センター
免疫トランスレーショナルリサーチ分野
ユニット長 大植 祥弘

自己の免疫システムが、外来異物でない“がん”を非自己として認識し、排除できるかということについては長らく疑問視されていたが、半世紀以上にわたるがんに対する宿主免疫応答の基盤研究で、ヒトの免疫システムは、がんに対する特異的な免疫を獲得することで腫瘍を排除しているという免疫監視機構の存在が科学的に証明された。

一方で、がん局所における免疫微小環境の解析で、がんを認識する自己の T 細胞が種々の免疫抑制因子を介して疲弊状態に陥り細胞傷害性機能を発揮できないような免疫逃避機構が構築されていることも明らかになった。これらの免疫逃避機構の中でも、CTLA-4 や PD-1/PD-L1 といった免疫チェックポイント分子による免疫抑制を阻害することで、潜在的な抗腫瘍免疫応答が再活性化し、劇的な抗腫瘍効果を得られることがマウスモデルで報告され、

現在、これらの分子を標的にした免疫チェックポイント分子阻害薬は、様々ながん腫で臨床応用され、これまでのがん治療の概念を大きく塗りかえ、単剤の奏効率はいまだ不十分であるものの生存期間の延長が認められ、がん克服への可能性が開かれた。